

2021 (R3) 年11月11日 (木)

山口県弁護士会所属 登録番号37149

ひよりやま No.21

弁護士 前田将志

山口県下関市丸山町三丁目2番1号 吉岡ビル2B TEL 083-242-5894 FAX 083-242-5895

007シリーズの最新作「No Time to Die」を観ました。ショーン・コネリー以来6代目となるダニエル・クレイグの最終作といわれています。クレイグさん、最初は「え、これがボンド…？、変な顔…」と思いましたが回を重ねるうちにすっかりなじんでしまい、ジェームズ・ボンドはこの人しかいないという感じになりましたね。今回も、予算をつぎ込んだ華麗なアクションの連続に目を奪われ、画面に釘付けでした。マドレーヌとパロマという二人のボンドウーマンもとてもチャーミングです。

さて、タイトルの「No Time to Die」はどう訳すのかなあと思っていたら、戸田奈津子さんの字幕では「まだ死ぬときではない」となっていました。英語に堪能な知人にきくと「I have no time to play (die)」なら「私には遊んでる(死んでる)暇はない」なので、ここは「まだ死ぬときではない」と訳されたのでしょうかとのこと。なるほど納得です。

書きたいことはたくさんありますが、ネタバレしてはいけませんので中身については控えます。でも、まだご覧になっていない方のために二つのことをおすすめします。まず、「カジノ・ロワイヤル」をはじめ過去4作の復習をしておきましょう。007シリーズはアクション8割、ストーリー2割なので話の展開を見失うことがあります。しかも1作目は15年前の2006年公開ですから忘れてますね。DVDを見返すのがベストですが、ネットで「あらすじ」を確認しておくだけでもとてもわかりやすくなります。二つ目はエンド・ロールの最後に浮き出るメッセージにご注目ください。作品の題名と考え合わせると結末の理解が変わるかも…。エンド・ロールに流れるルイ・アームストロングの歌「We have all the time in the world」もなかなか意味深長ですね。

裁判官の「国民審査」

今回の総選挙、「日本維新の会」の急伸が印象的ですが、みなさんは結果をどのように受け止められたでしょうか。

ところで同時に行われた11人の最高裁判所裁判官の国民審査については「よくわからない」という声をたくさん聞きます。憲法に定められた貴重な制度ですが、各裁判官が関与した判決(の中で述べた意見)を評価することはとても難しいですね。ちなみに私の知人は「6月の選択的夫婦別姓に関する判決(ひよりやま No20 で紹介しました)を参考にして×を付けた」そうです。でも、そこまで考える人はごく少数で多くの方はなにも記入せず投票しているのが現実でしょう。毎日新聞によると、この合憲判決に関わった4人の裁判官は他の7人より×が多かったそうですが、それでも2%前後の差です。

「最高裁判所裁判官国民審査法」という法律があり、第15条で「罷免を可とする(辞めさせたい)裁判官については……×の記号を記載」「罷免を可としない裁判官については……何らの記載をしない」となっています。多くの方がなにも書かずに投票しますから、これまで罷免された方は一人もありません。では、法律を改正して「信任する裁判官に○を付ける」方法にしたらどうかというと、「わからないから○をつけない」人が多くて全員が罷免される、ということになりかねませんね。

せっかくの制度ですから、もっとわかりやすく効果的なものに工夫できないだろうかと思えます。

